

和気・平病院

アートで癒やしを

和気町尺所の平病院で、町花・フジなどをモチーフにした壁画アートの制作が進んでいる。癒やしの空間づくりを目指し、川崎医療福祉大（倉敷市松島）の医療福祉デザイン学科4年栗原玲音さん(22)が手掛ける。30日には病院職員らと共同で作業して完成させる予定だ。

(岡亮佑)

川崎医福大・栗原さん

「キャンバス」は院内3カ所。1階エレベーター入り口の壁（高さ2・5メートル、幅3メートル）はハート形のフジ▽3階の病室扉（高さ0・7メートル、幅5メートル）はイルカやカニなど海の生き物▽3階ナースステーション前の壁（高さ0・7メートル、幅12メートル）は和気の山々と吉井川のデザインで彩る。

壁面にベースとなるシールを貼り付けた後、切り抜いた青や緑のシールを重ねて貼り合わせる手法で、模様を描き出す。今月2日には大学の仲間4人と病院を訪れ、ナースステーション前で作業を行い、1作品を完成させた。

「院内の雰囲気を明るくするようなアートを

壁面にフジなどデザイン



ナースステーション前の壁面に和気の山河を描き出す栗原さん（手前）ら

ってほしい」と、平病院が大学を通じて依頼し、栗原さんが引き受けた。

今春から何度も和気町に足を運び、デザインを考えた。栗原さんは「患者さんをはじめ、病院を訪れる人たちを少しでも癒やすことができればうれしい」と話す。

30日は午後1時から作業し、残り2作品を完成させる。誰でも参加できる。問い合わせは平病院（0869-31155）。